

【厚真町】 校務 DX 計画

厚真町は総合型校務支援システムを導入しており、他にも Google for Education による Classroom を活用し情報共有システムを整えることで、教員間の伝達事項等についてオンライン上でのやり取りが実現されている。校務支援システムへの名簿情報の手入力作業は極力行わないよう取り組んでいる。

また、保護者とのやり取りにおいてもデジタル化を図り、学校からの連絡事項について、学校のシステムからやり取りを可能としている。

児童生徒とのやり取りについても Classroom を活用し、課題等についてもデジタルドリル教材等を活用している。

FAX については電子化により使用される機会は少ないが、押印については、一部で押印が必要な書類があるため、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校とかかわりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。

このように、各種デジタル化を推進する中で、今後の課題について次のとおり記載する。

1 ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

厚真町では、セキュリティ確保のため、校務で利用するパソコン用のネットワークと授業等で児童生徒がアクセスできるネットワークをそれぞれ整備し、校務系と学習系でネットワークを分断してきた。

しかし、今後ゼロトラストセキュリティの考え方に基づいた統合型ネットワークの構築が求められることから、教員のタブレット端末から学習系、校務系両方のネットワークを利用できるよう、セキュリティ対策踏まえ、ネットワークの統合について調査研究を進めていく。

また、校務系ファイルサーバの再構築を検討し、令和 8 年度に整備ができるよう調査を進める。

2 ペーパーレスの推進

これまで厚真町では、校務支援システム等の機能により、職員間の情報交換や資料などをデータで共有するなどペーパーレスな取組を実践してきた。

一方、課題として、学校現場では学校通信など保護者へ紙媒体で配布する状況が残存している。

厚真町では、令和 6 年度に保護者連絡システムを更新し、緊急時の連絡はもとより、様々な情報を学校から保護者へ通知するシステムが構築されている。

現状児童生徒は1人1台端末により各種クラウド利用の個人アカウントが付与され、そこで情報共有ができていることから、保護者への配布物等は、個人情報等のセキュリティ制限のかからない配布物については、既存の保護者通知システムにより配布することを推奨し、ペーパーレス化を推進する。

また、校長会議や教頭会議においても、授業用端末及びクラウドサービスの活用することを検討し、会議資料のペーパーレス化をより一層推進していく。

3 校務における生成A I等の活用

先進的に実践している学校や自治体を参考にしながら、厚真町においても学校での生成A Iの利用に関する規定を定め、教育場面や校務での利活用に向けて調整していく。